

## 合唱を通して生まれる 心のつながりを大切に

### 歴史ある市民合唱団

鳥取市民合唱団は、昭和37年に結成され、今年で50周年を迎えた非常に歴史の深いアマチュア混声合唱団です。演奏会の開催やイベントステージへの出演など継続的に活動。和気あいあいとした雰囲気の中で、みなさんが気持ちよく声を出す姿が印象的です。

平井さんは、合唱団の長い歴史の中で、なんと25年近くも団長を務めています。「自分が合唱を始め、何十年も続

### 鳥取市民合唱団



マネージャー  
大石 正人 さん  
Masato Oishi

団長  
平井 静子 さん  
Shizuko Hirai

けるとは思いもしませんでした」と、平井さんは当時の気持ちを振り返ります。また、練習するうちに高い声で歌えるようになり、「継続は力なり」と実感しています。

大石さんは、昨年1月に鳥取市に転入。偶然訪れていたイベントで聴いた、市民合唱団の歌声に心をわしづかみにされ「この人たちの隣で歌いたい」と、入団を即決しました。団員として歌うだけでなく、合唱団のマネージャーとして、定期演奏会の広報や団員同士の意思疎通のため

に尽力しています。「練習ができる回数は違ってても、練習にかける気持ちは一緒に」と大石さん。ニュースレターを配布し、パートリーダーや職場に近い団員の協力を得ながら、練習の進捗状況や最近話題になつてきていることなどを欠席者に伝え、練習に入りやすい雰囲気づくりを心がけています。「十分にできていないと思わないのですが」と控え目に語りながらも、「みんなと一緒に音楽やステージ、お客様との接点をどう作るのかを考えることは挑戦的で面白

い」と、充実した時間を過ごしています。

### 心と心が響き合う瞬間

一人で合唱はできません。また、一人ひとりが正しく歌っている合奏にはなりませんが、平井さんは「みんなと一緒に練習を重ね、曲をどう歌い上げるのか、気持ちを一つにしていくことが最も大切」と語ります。しかし、団員のほとんどが家庭や仕事を持っているため、それがどれだけ難しいことかも痛いほど分かっています。



前回の定期演奏会（平成22年10月）

《6月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介しします。

【話題・特集】

- ▷ 2012 近畿・中国・四国 B-1 グランプリ in TOTTORI
- ▷ 開幕！市民体育祭
- ▷ 消防団ポンプ操法大会
- ▷ 今年度の主な事業



昨年の「消防団ポンプ操法大会」

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばびよんびよんネット  
.....自主制作番組.....

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

福部のラッキョウ、神戸の梅、青谷のびわなど、市内各地の特産品の収穫や出荷の様子をお伝えします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

小学校の新一年生の学校生活の様子をご紹介します『こんにちは一年生』のコーナーが始まりました。

生活情報番組『びよんびよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介しします。

※番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください

情報をお寄せください！

いなばびよんびよんネット TEL 0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。  
番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。  
<http://www.inabapyonpyon.net>



「光と風と波と」の合同練習

「あっ、今上手くなったという感覚があり、こんな素晴らしい声で自分たちは歌えるじゃないかと実感します」と平井さん。練習の苦労を経験するからこそ味わえる最高のひとときです。

ステージ上では、自分の奏でるハーモニイが客席の反応を吸い込み、ホール全体の響きとなつてふわつと返ってくる瞬間があります。

鳥取の文化の礎として

す。ステージを後にしても残る高揚感。団員のみなさんがこの思いを共有していると大石さんも確信しています。

7月8日(日)、午後2時から、とりぎん文化会館梨花ホールで「創立50周年記念定期演奏会」が開催されます。この演奏会で披露される「光と風と波と」は、市民合唱団にとって非常に特別な歌。鳥取砂丘や日本海、しゃんしゃん祭など、鳥取の情景が鮮明に描かれた曲集です。

その難易度から過去に3度しか歌われたことがありません。大石さんは「この曲は鳥取の宝物が凝縮された曲。鳥取の風景を追体験しながら、当たり前だと思ってる鳥取のよさを見つめて欲しい」と、歌に思いを込めながら、今日も練習に励んでいます。

「鳥取を離れても、鳥取の歌大使としてこの曲を伝えて行きたい」。大石さんも、鳥取で宝物を見つけています。合唱を通して心と心のつながりを育みながら、市民合唱団は鳥取の文化その歴史をつなげていきます。